

日本工業標準調査会 標準部会 第28回 窯業技術専門委員会 議事録

1. 日時 : 平成22年2月3日(水) 14:00~16:00

2. 場所 : 経済産業省 別館10階1014各省庁会議室

3. 出席者: 10名

植松委員長(長岡技術科学大学) 伊吹山委員(電気化学工業(株)) 鶴澤委員(硝子繊維協会) 荻原委員(鹿島建設(株)) 加山委員(黒崎播磨(株)) 桑山委員(JFEスチール(株)) 福地委員(日本板硝子(株)) 松木委員(東邦テナックス(株)) 山内委員((独)産業技術総合研究所) 野原委員((財)日本規格協会)

欠席者: 1名 町田委員((株)日立製作所)

説明者: 9名

R1688: 森川((独)産業技術総合研究所) 志村((社)日本セラミックス協会)

R3258: 赤井((独)産業技術総合研究所) 石井(ガラス産業連合会)

R7201: 野口(東海カーボン(株)) 金子(炭素協会)

R1625: 松尾(東京工業大学) 田辺((社)日本ファインセラミックス協会)

アクションプラン: 小林(耐火物技術協会) 田辺((社)日本ファインセラミックス協会)

事務局: 3名

平野、関野、森野(経済産業省 産業基盤標準化推進室)

4. 議題

(1) 日本工業規格案(制定)の審議 : 2件

R1688 ファインセラミックス用マグネシア微粉末の化学分析方法.....資料 1

R3258 ガラス中の微量のカドミウム,クロム及び鉛の定量方法.....資料 2

(2) 日本工業規格案(改正)の審議 : 3件

R7201 人造黒鉛丸形電極の寸法.....資料 3

R1705 ファインセラミックス

- 光照射下での光触媒抗かび加工製品の抗かび性試験方法.....資料 4

R1625 ファインセラミックスの強さデータのワイブル統計解析法.....資料 5

(3) 2010年版 窯業分野国際標準化アクションプランの審議.....資料 6

(4) 平成22年度 窯業技術分野 工業標準化審議計画の審議.....資料 7

(5) その他

5. 議事

(1) 日本工業規格案(制定)の審議

R1688 ファインセラミックス用マグネシア微粉末の化学分析方法

資料1に基づいて説明があり、以下を行うことで承認された。

1)「2 引用規格」に、JIS K 8034、JIS K 8102、JIS K 8541、JIS K 8576、JIS K 8951、JIS K 8982 を追加する。

2)「5.2 試薬」のd)、f)、h)、i)、j)、k)、l) を、以下のように修正する。

d) 硫酸(1+4) JIS K 8951 に規定する濃硫酸の体積1と水4とを混合したもの。

f) 水酸化ナトリウム JIS K 8576 に規定するもの。

h) チオシアン酸水銀(II) 分析に支障がないもの。

- i) エタノール(95) JIS K 8102 に規定するもの。
- j) 硫酸アンモニウム鉄(III) JIS K8982 に規定するもの。
- k) 硝酸(4+9) JIS K 8541 に規定する硝酸の体積 4 と水 9 とを混合したもの。
- l) アセトン JIS K 8034 に規定するもの。

3) 「13.3 c) 5) 」、 「13.3 c) 6) 」、 「13.3 f) 3) 」、 「13.3 h) 2) 」に記載されている、「チオシアン酸第二水銀」、「硫酸第二鉄アンモニウム」をそれぞれ、「チオシアン酸水銀(II)」、「硫酸アンモニウム鉄(III)」に修正する。

R3258 ガラス中の微量のカドミウム、クロム及び鉛の定量方法
資料 2 に基づいて説明があり、承認された。

(2) 日本工業規格案(改正)の審議

R7201 人造黒鉛丸形電極の寸法
資料 3 に基づいて説明があり、承認された。

R1705 ファインセラミックス
- 光照射下での光触媒抗かび加工製品の抗かび性試験方法
資料 4 に基づいて説明があり、承認された。

R1625 ファインセラミックスの強さデータのワイブル統計解析法
資料 5 に基づいて説明があり、「FORTRAN によるプログラムの例」及び「表 A.1 のデータ入力による計算結果の出力例」の「。」を「.」に修正することで承認された。

(3) 2010年版 窯業分野国際標準化アクションプランの審議

資料 6 に基づいて説明があり、委員会後に募集する意見を反映することで承認された。

(委員意見) TC 206 の国際標準化戦略の記述で、「・・・またアジア各国、BRICs 等の粗悪品による性能や製品に対する信用力失墜を防ぎ・・・」及び「・・・BRICs 等のグレードの低い製品に対する国内製品の優位性を確保する・・・」とあるが、必ずしもアジア各国や BRICs だけが、粗悪品やグレードの低い製品を排出している訳ではなく、限定しすぎている。

(事務局回答) 以下のように書き換える。

「・・・またアジア各国、BRICs 等の粗悪品による性能や製品に対する信用力失墜を防ぎ・・・」
「・・・また、粗悪品の蔓延による性能や製品に対する信用力失墜を防ぎ・・・」
「・・・BRICs 等のグレードの低い製品に対する国内製品の優位性を確保する・・・」
「・・・グレードの低い製品に対する国内製品の優位性を確保する・・・」

(事務局意見) 耐火物分野に「クロムフリー耐火物」や「低カーボン質耐火物」などの先進的技術の記述があるが、これらと、今実施しようとしている標準化活動がどのように結びつくのか。我が国の優れた技術を、標準化活動に結びつけるようなアクションプランにはならないか。新しい切り口で、標準化に打って出る必要があるのでは。研究開発と標準化の一体的推進を実施すべきでは。一般的な化学分析方法や物理試験方法を効率的に行う、という形だけでなく、新たな試験方法としての標準化が必要ではないか。

(説明者回答) 耐火物の分野では、あまり先進的な技術を標準化していく動きが無いのが現状であるが、国内委員会の議題にあげて議論していく。

(委員意見) 耐火物とセラミックスでは、試験方法で似ているところがある。耐火物の新コンビナー候補が、ファインセラミックスの国際幹事でもあり、交流できれば良い。ファインセラミックスの規格の中で耐火物の参考になるものもあると思う。

(説明者回答) ファインセラミックスは日本が先導しているのに対し、耐火物は欧州が先導してお

り、欧州の規格が国際標準になるケースが多く状況が異なる。しかし、「熱間耐摩耗性」などの新試験法については、欧州以外からの提案で議論されており、また、我が国が得意とする試験法についても、我が国提案からの国際規格化のチャンスでもあるので、ファインセラミックスを参考にして今後推進していこうと考える。

(4) 平成22年度 窯業技術分野 工業標準化審議計画の審議

資料7に基づいて説明があり、委員会後に募集する指摘事項を反映することで承認された。

(委員会後の指摘事項)

- 1)「JIS見直し」の一覧表の「R2101」の「公示予定」が「確認」となっているが、正しくは「改正」である。
- 2)「JIS見直し」の一覧表の「R3425」の「公示予定」が「確認」となっているが、正しくは「廃止」である。

(5) その他

- ・事務局から、委員手続きの連絡を行った。
- ・委員より、日本工業規格案の審議の際に、解説が有る方が便利であるとの指摘が有り、次回より、参考資料として席上配布することとした。

以上